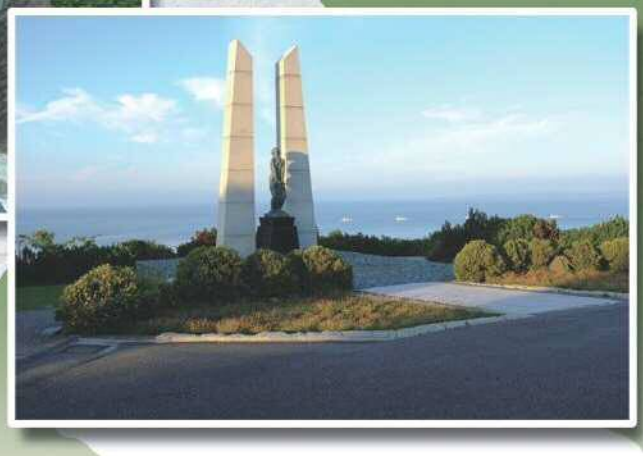
情報労連
情報産業労働組合連合会

2019
8.19(月)
8.20(火)

情報労連北海道協議会

2019 平和行動in稚内



You aren't supposed to forget tragedy of a war.

◆終戦前後の状況

1904年2月8日 ～翌年9月5日	**日露戦争**　…大日本帝国とロシア帝国[7]との間で朝鮮半島とロシア主権下の満洲南部を主戦場として発生した戦争である。両国はアメリカ合衆国の仲介の下で終戦交渉に臨み、1905年9月5日に締結されたポーツマス条約により講和した。 **ポーツマス条約**　…。1905年（明治38年）9月4日（日本時間では9月5日15時47分）、アメリカ東部の港湾都市ポーツマス近郊のポーツマス海軍造船所において、日本全権小村寿太郎（外務大臣）とロシア全権セルゲイ・Y・ウィッテの間で調印された。ロシアは樺太の北緯50度以南の領土を永久に日本へ譲渡するという内容が含まれいて、北側はロシア、南側は日本が領有した。
1945年2月	**ヤルタ協定**　…主に日本に関して、アメリカのルーズベルト、ソ連のスターリン、およびイギリスのチャーチルとの間で交わされた秘密協定。1944年12月14日にスターリンはアメリカの駐ソ大使W・アヴェレル・ハリマンに対して樺太（サハリン）南部や千島列島などの領有を要求しており、ルーズベルトはこれらの要求に応じる形で日ソ中立条約の一方的破棄、すなわちソ連の対日参戦を促した。 ヤルタ会談ではこれが秘密協定としてまとめられた 。この協定では、ソ連の強い影響下にあった外モンゴル（モンゴル人民共和国）の現状を維持すること、樺太（サハリン）南部をソ連に返還すること、千島列島をソ連に引き渡すこと、満州の港湾と鉄道におけるソ連の権益を確保することなどを条件に、ドイツ降伏後2ヶ月または3ヶ月を経てソ連が対日参戦することが取り決められた。
1945年7月26日	**ポツダム宣言**　…ポツダム会談(7/17)での合意に基づいて、アメリカ合衆国（米国）、中華民国およびイギリス（英国）の首脳が、1945年（昭和20年）7月26日に大日本帝国（日本）に対して発した、第二次世界大戦（太平洋戦争（大東亜戦争））に関し、「全日本軍の無条件降伏」等を求めた全13か条から成る宣言。
1945年8月6日　午前08：15	**広島市原爆投下**
1945年8月9日　午前11：02	**長崎市原爆投下**
1945年8月8日午後5時 モスクワ時間 （日本時間：午後11時）	**ソ連の宣戦布告**…ソ連外務大臣ヴャチェスラフ・モロトフから日本の佐藤尚武駐ソ連大使に知らされた。事態を知った佐藤は、東京の政府へ連絡しようとしたが領事館の電話は回線が切られており奇襲を伝える手段は残されていなかった。この布告では、連合国が発表したポツダム宣言を黙殺した日本に対し、世界平和を早急に回復するために武力攻撃を行うことが宣言されている。これにより、日ソ中立条約は完全に破棄された。ソ連軍は対日参戦を実行し、満州国、樺太南部、朝鮮半島、千島列島に侵攻し、日本軍と各地で戦闘になった。既に太平洋戦線の各地で米軍に敗退していた日本軍にこれを防ぐ手段は無く、原爆投下に続き日本にとどめを刺した。
1945年8月14日	**ポツダム宣言を受諾**
1945年8月15日	正午　玉音放送　停戦成立　　日本の終戦
1945年8月20日	早朝　9人の乙女自決
1945年8月22日	三船殉難事件
1945年8月28日～9月5日	ソ連による北方4島占領

◆終戦について

ミズーリ艦上で降伏文書の調印に臨む日本側全権団。中央の燕尾服姿が重光外相。【AFP＝時事】

・戦艦ミズーリ艦上での降伏文書調印式

日本がポツダム宣言を受諾した2週間後の1945(昭和20)年8月28日、米軍の第一次進駐部隊が神奈川県の厚木飛行場に着陸した。2日後には連合国最高司令官として占領地である日本の最高権力者となった米国のダグラス・マッカーサー元帥が厚木飛行場に降り立った。

9月2日には東京湾上の米戦艦ミズーリ号の甲板で降伏文書の調印式が行われた。日本側の全権団は重光葵外相、梅津美治郎参謀総長らで、これを迎えたマッカーサー元帥は「相互不信や憎悪を超え、自由、寛容、正義を志す世界の出現を期待する」との演説で終戦を宣言した。降伏文書が調印されたことにより、足かけ5年にわたる太平洋戦争は公式に終了した。以後、51(昭和26)年9月の対日講和条約調印まで、日本は連合国の占領下に置かれることになった

――条約違反の宣戦布告と停戦後の侵攻――

昭和２０年（1945）年８月９日、ソ連は降伏５日前の日本に対して宣戦布告し、満州・北朝鮮および南樺太・千島列島において戦闘をはじめたが、これは、翌年４月まで有効であった日ソ中立条約の完全な侵犯行為であった。

８月１４日、日本がポツダム宣言を受諾すると、スターリンは全千島列島、および、北海道の北半分をソ連領とすることを要求したが、トルーマン米大統領は、千島については同意したものの、北海道については拒否をした。

スターリンの命令により、８月１５日の停戦成立以降も、ソ連軍による千島列島侵攻が進められ、北方４島は８月２８日から９月５日までに占領された。

ソ連軍は、北方４島領有の根拠として、ルーズベルト大統領とのヤルタ協定を上げていたが、わが国が参加していない協定が、わが国の領土を取り決める権限を持ち得ないのは、国際常識であり、また、当事国アメリカも、同協定は首脳どうしの方針を述べた文書に過ぎず、領土移転のいかなる法律的効果を持っていないと宣言している。

――真岡郵便局の９人の乙女の悲劇――

８月２０日早朝、真岡郵便局の交換室では、ソ連軍が真岡港に向かった旨の連絡を、幌泊の監視哨から受信して危険をいち早く知った。女性交換手たちは、これをさる１６日、緊急疎開するようにという指示を受けていたが、急を告げる重要な電話の機能を守るため引き揚げるわけにはいかないと主張してとどまっていた。その朝、交換室の監督、高石ミキさんは、宿直者全員を起こして交換台につかせ、緊急を告げるための電話回線を守った。避難する町民や他の主要な町への連絡を維持するために。港からは凄まじい艦砲射撃、町の角々ではソ連兵が機銃掃射を浴びせ、一般住民を見境無く次々と撃ち殺している。郵便局長の上田豊蔵さんも、郵便局に向かったが、激しい銃撃のためにたどりつくことができない。彼女たちの身にも刻々と危機が迫ってくる。電話局は警察の隣りにあるため狙われ易く、後ろが崖で逃げることができない絶体絶命の状況だった。そんな中で、９人の交換手たちは、ソ連軍の辱めを受けるくらいならと、用意していた青酸カリで自決したのであった。

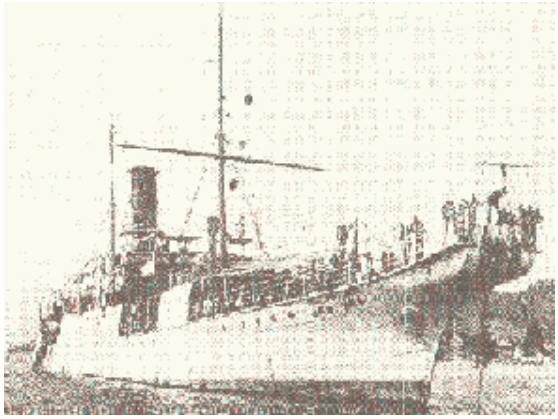
――引き揚げ船三船の殉難――

太平洋戦争の敗戦から一週間が過ぎて、樺太（現サハリン）から「緊急避難」する３隻の引き揚げ船が「国籍不明」の潜水艦によって襲撃されたのである。小笠原丸、第二新興丸、泰東丸の３隻で、合わせて５千人あまりが乗っていた。小笠原丸　１，４０３ｔで１５００名を超える避難民（現在のフェリー１万６千ｔで定員７００名程度）客船ではなく作業船。

8 月 22 日の早朝、3 時過ぎ、それぞれの引き揚げ船は、北海道の島影をすぐ左側に見ながら、ゆっくりと小樽港へ向かって南下していた。魚雷攻撃と砲撃により、小笠原丸と泰東丸は瞬く間に沈没、第二新興丸は大破しながらもかろうじて留萌港にたどり着いたが、計約 1,700 名の人名が犠牲になってしまったのである。

2005 年 8 月、「国籍不明」の潜水艦はソ連太平洋艦隊の所属であったことが「北海道新聞」に報道された。新生ロシアが、長い年月を経て、やっと真相を情報公開したのである。ソ連軍は、スターリンの命令により、8 月 15 日の日本の降伏後も、なお戦闘を継続させていた。スターリンは、北海道の北半分の占領を企て、ソ連軍 2 個師団を留萌に上陸させる作戦計画を立てていたらしい。その作戦を円滑に遂行するために、潜水艦を留萌沖周辺に配置して、留萌港に近づく日本艦船はすべて撃破する態勢をとっていたという。小笠原丸などの３船が犠牲になったのは、このような状況下であった。

このソ連の北海道北半分占領の企ては、アメリカ政府の強い反対にあって、8 月 22 日の夕方、急遽中止された。しかし、戦闘停止命令がソ連潜水艦に届いたのは、その日の深夜になってからで、そのときにはすでに、約 1,700 名の日本人人命を奪った惨劇は終わってしまっていた。



海底ケーブル敷設船小笠原丸

増毛　小笠原丸慰霊之碑

鬼鹿　三船殉難慰霊之碑

「引き上げ船三船の殉難」

小笠原丸　逓信省海底電線敷設船

(1403トン　翠川信遠船長以下60人乗り組み)

8月21日　樺太より稚内港に入港　避難民1514名のうち878名下船　午後4時小樽に向けて出航(乗船者避難民636名　稚内から乗船避難民６名　乗組員60名　合計702名)

8月22日　午前4時22分　北緯43度50分東経141度19分増毛町別苅の沖合い　潜水艦の魚雷攻撃を受けまもなく沈没　生存者は避難民が20名、乗組員42名の合計62名死亡または行方不明者は640名(641名とする文書もあり)

「小笠原丸殉難の碑」

村上高徳氏・道・増毛町・電電公社の４者によってたてられた。昭和27年11月　村上高徳氏は増毛町会議員で昭和24年から昭和27年までの４年間私財を投じて３１２体の遺体を海底の船内から引き上げられた。

　死者名簿には子供の氏名不詳が多く死者の特徴や着衣が書かれている(大人は胸に名札が縫い付けられているが子供は少ないためである)

第二新興丸　特設砲艦兼敷設船(１２センチ砲２門、２５ミリ機銃１０数丁、爆雷投射筒)

(２５００トン　萱場松次郎艦長・海軍大佐以下乗組員１６４名)

８月21日　避難民3600名(正確な数字は不明)を乗せ、稚内に向かうが、小樽への回航指により小樽へ向かう。

８月22日　小笠原丸沈没後１時間後ぐらいに留萌沖で潜水艦(２～３隻)と遭遇し交戦となり、魚雷攻撃で大破となり多数の死傷者を出すも午前９時ころ留萌港へ入港をはたす。上陸した避難民の数は３１５０名程度。したがって死者は４００人と推定されています。

泰東丸　東亜海運所属(民間船　887トン)

8月22日　乗船人員780名(乗組員含めて)を乗せ苫前沖(鬼鹿村大椴の沖の証言あり)を、午前10時ころ小樽へ向けて航行中突然浮上してきた潜水艦に対して白旗を掲げたが、砲撃を受け機関部に命中し轟沈した。113名が救助されるも667名が死亡または行方不明と三船の被害の中で最大となった。

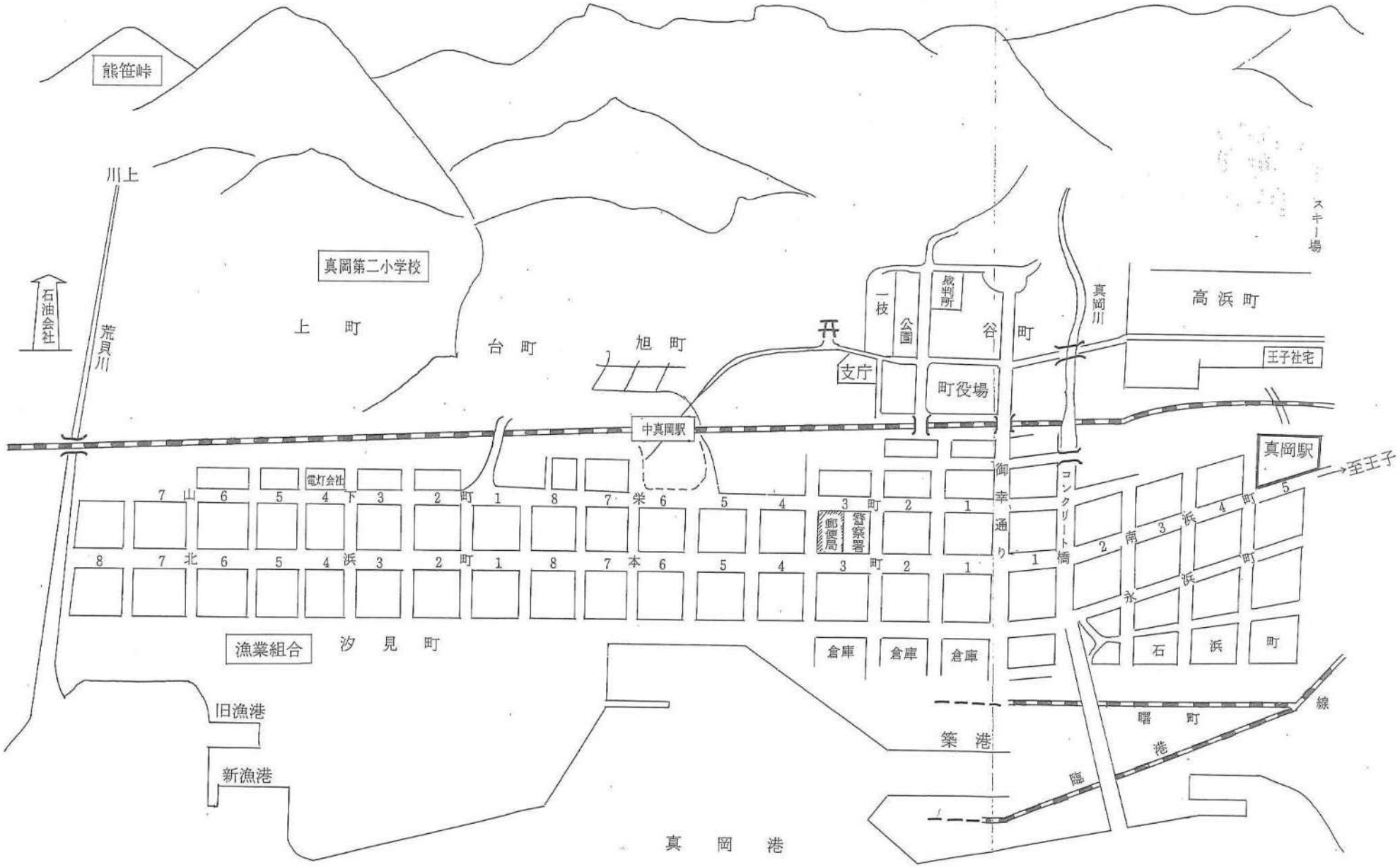
8月22日　この三船のほか能登呂丸(1100トン)も避難民を迎えにいくため航行中に沈没させられており、戦後1週間もたっているにもかかわらず1700名を超える犠牲者が出ているのである。鬼鹿に建設されている碑は「三船殉難の碑」であります。

　また、留萌市にも以前はありましたが現在はモニュメントになっています。

眞岡郵便局

眞岡郵便局跡地

真　岡　町　市　街　略　図（佐々木愛子氏所蔵図より）



志賀　晴代さん

沢田　キミさん

可香谷シゲさん

高石　ミキさん

伊藤　千枝さん

吉田八重子さん

高城　淑子さん

松橋みどりさん

渡辺　　照さん

金子俊男　著　「樺太１９４５年夏」より

「自決した9人の乙女」

高石さんら宿直の交換手全員が自決したらしいとの話を聞いた上田豊蔵さん(当時彼女たちの上司で真岡郵便局長)鈴木さん(電話交換手)斎藤さん(電信の女子事務員)の三人は、医者と看護婦になりすまし局舎にはいり廊下を抜け薄暗い階段を駆けるようにしてのぼり、右手の交換室の戸をあけた。 三人の目にまっさききに飛び込んできたのは、監督の机の前に倒れている高石ミキさん(24歳)の遺体であった。机の上にはその日の交換証のつづりと事務日誌がきちんと重ねられて、そのわきに睡眠薬の空き箱が2つころがっていた。

また、吉田八重子さん(21歳)は市外交換台にプラクをにぎったままうつ伏せになり、隣の市外交換台の前では、コードをつかんだままの渡辺照さん(17歳)が横倒しになっている椅子の上に覆いかぶさるように死んでいた。

この二人はブレストを頭につけたままで、最後まで他局からの呼び出しに応ずるために、薄れゆく意識の中で交換台にしがみついていたのであろう。

プラクを握り、コードをつかんだ右手の指先に彼女らの仕事に対する執念をみた思いであった。

三人はあふれる涙をぬぐおうともせず、九人の最後をしっかり脳裏に刻み込んだ。

可香谷シゲさん(25歳)、伊藤千枝さん(22歳)、沢田キミさん(19歳)、高城淑子さん(19歳)、志賀晴代さん(22歳) の五人は、監督台と東の窓に添って並んでいる交換台のほぼ中間で、恐怖のため肩を寄り添うようにして倒れ、ただ一人松橋みどりさん(17歳と局長は記憶)の遺体だけがどうしてたわけか南に面した窓際にあった。

睡眠薬の空き箱があることからみて、最後を見苦しくしたくない女性らしい心やりから睡眠薬を飲んだあと青酸カリを飲み下したのであろう。

そんななかにあって、当時17歳であった松橋さんが最後の瞬間まで生きたいと願ったのであろうか、あるいは戦火に追われて逃げる肉親の無事を願ったのかもしれない。そのいずれにしても胸を打つ最後であった。

九人は白っぽい制服にモンペをつけていた。(2枚重ね着していた方もいた) 午前３時には就寝したはずだから睡眠中に起こされたのだろうに、その乱れはみじんも見受けられなかった。

室内も女性の職場らしく、いつものように整然としていた。しかし、交換台には五，六発の弾痕があった。

すでに窓越しに見る町には、激しい銃声とともに恐ろしいソ連兵が押し寄せている中で、若い乙女たちにして自ら命を絶つ以外道があったであろうか。

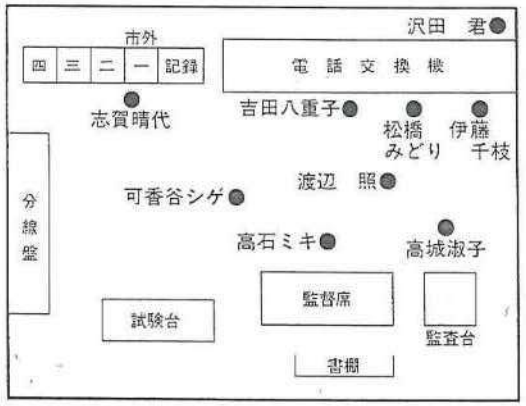
同行したソ連軍将校は、局長たちの背後に立って最後の瞬間まで職場を守って死んでいった九人の遺体をみじろきもせず見つめていたが、ついにひざまずいて慟哭する鈴木さんらを見ると、静かに胸元に十字を切ってしばらく瞑目していた。

「死」ことに職責に死した乙女を見たとき、そこには敵、味方も人種の差もなく人間としての崇敬な気持ちがあるだけである。

電話交換室

真岡郵便局

九人の乙女の自決場所



監督■村山三男
総指揮■二池信・小倉寿夫
製作■望月利雄・守田康司
原作■金子俊男
脚本■国弘威雄

樺太1945年夏

氷雪の門

●協力●
社団法人札幌観光協会
社団法人北海道観光連盟
札幌宇惠多旅館
㈱北海道観光百景
社団法人全国樺太連盟
稚内市

JMP
株式会社JMP作品

■スタッフ

総指揮 三池 信
小倉寿夫
製作 望月利雄
守田康司
企画 望月利雄
高木 豊
原作 金子俊男
（北海タイムス連載「樺太1945年夏」樺太終戦記録）
脚本 国弘威雄
監督 村山三男
音楽構成 大森盛太郎
作曲 横山 将児
演奏 東京フィルハーモニー交響楽団
合唱 二期会合唱団
撮影 西山東男
照明 野村隆三
美術 木村威夫
録音 安田哲男

■キャスト

岡根 律子……二木てるみ
藤倉 信枝……鳥居恵子
斉藤 夏子……岡田可愛
石田 ゆみ……野村けい子
鳥貝 啓子……今出川西紀
堀江 正子……八木孝子
神崎 幸子……相原ふさ子
青木 澄子……桐生かほる
仲村 弥生……木内みどり
林田 千恵……北原早苗
香取 知子……岡本茉利
手塚美沙子……大石はるみ
坂本 綾子……藤田弓子
三好 とく……真木沙織
北野 早苗……藤堂貴巳子
植中 賢次……千秋実
久光 忠夫……若林豪
仁木師団長……島田正吾
鈴木参謀長……丹波哲郎
吉崎 大尉……三上真一郎
清水連隊長……藤岡重慶
村口副官……黒沢年男
岡谷 俊一……佐原健二
関根 辰三……今福正雄
しず……赤木春恵
森本 きん……七尾伶子
藤倉 亮介……伊沢一郎
安川 徳雄……田村高廣
房枝……南田洋子
中西 清治……浜田光夫
斉藤 秋子……岡田由紀子
菅原 良子……柳川慶子
美保子……栗田ひろみ
小松 崚市……見明凡太郎
梅津 勝介……柳谷寛
神崎 雄一……織本順吉
中村 悦子……鳳八千代
柳田……久野四郎
斎木……城山順子
渡部……久米明

「氷雪の門」上映委員会
新城卓 東勝 辻真里 菊地昭典
石田道彦 亀岡一郎 守田康司
（法律アドバイザー） 本山信二郎

かいせつ

ソ連領サハリンと呼ばれるかつての樺太。終戦時の混乱期に、この地は十万余の同胞を失った。この映画はソ連の侵攻作戦の真只中、最後まで通信連絡をとり、若い生命を投げうった真岡郵便局電話交換手九人の乙女の悲劇を描いた真実の物語である。

北海道稚内の突端に、二本の塔が失われた樺太を望んで立っている。戦争への怒りと、平和への願いをこめたこの塔は「氷雪の門」と呼ばれる。映画「氷雪の門」も、この塔と全く同じ願いをこめて作られた。

ものがたり

太平洋戦争は既に終末を迎えようとしていたが、戦禍を浴びない樺太は緊張の中にも平和な日々が続いていた。だが、ソ連が突如として参戦、日本への進撃を開始した。北緯五十度の防衛線はまたたく間に突破され、ソ連軍は戦車を先頭に怒濤の如く南下して来た。罹災者たちは長蛇の列をなして、西海岸の三岡の町をめざして逃げた。

真岡郵便局の交換嬢たちは、四班交替で勤務についていた。彼女たちの中には、原爆を浴びた広島に肉親を持つ者がいる。最前線の国境に恋人を送り出した者がいる。映画は刻々と迫るソ連軍の情報と、急を告げる逼迫した会話を胸の張り裂ける思いで、息をひそめて聞き入るほかになすすべもなかった。

八月十五日、全く突然に終戦の報がもたらされた。敗戦国の婦女子がたどる暗い運命、生きられるかも知れないという希望、さまざまな思いが交錯する中で、樺太全土に婦女子の疎開命令が出た。一人、また一人と、交換手たちも引き揚げていく。しかし、ソ連の侵攻はやまなかった。むしろ激しさを加え、殺りくを重ねた。戦争はもう終ったのではないのか？人々は戸惑い、混乱した。

それは八月二十日、霧の深い早朝であった。突如、ソ連艦隊が現われ、真岡の町に艦砲射撃を開始した。町は紅蓮の焔に包まれ、戦場と化した。この時、第一班の交換嬢たち九人は局にいた。緊急を告げる電話の回線、避難経路の指示、多くの人々の生命を守るため、彼女たちは職場を離れなかった。局の窓から迫るソ連兵の姿が見えた。路上の親子が銃火を浴びた。もはや、これまでだった。班長はたった一本残った回線に「皆さん、これが最後です。さようなら、さようなら」と叫ぶと静かにプラグを引き抜いた。

回 世界の戦争孤児に売上金の一部を寄付させて頂きます。

2012年 2/4 第491号（通刊 3044号）
毎週土曜日発行（第3土曜日は除く）
定価 月 300円（組合員の購読料は組合費の中に含む）
1950年10月26日第三種郵便物認可　1961年8月29日特別局承認第289号
発行所 NTT労働組合
東京都千代田区神田駿河台3-6
全電通労働会館内　〒101-8320
TEL03-3219-2111 FAX03-3219-2201
http://www.ntt-union.or.jp/
NTT労組
ALL NTT WORKERS UNION OF JAPAN

"平和への誓い"新たに

海底ケーブル敷設船「小笠原丸」遺留品授与式

旧逓信省の海底ケーブル敷設船「小笠原丸」の遺留品授与式が、一月二〇日に北海道増毛町で開かれ、NTT労組北海道総支部、NTT労組コミュニケーションズ本部、同本部WEマリン分会、NTTワールドエンジニアリングマリン（WEマリン）などの関係者が参加した。

小笠原丸は、終戦後、樺太からの引揚船として活動していたが、一九四五年八月二三日、他の引揚船二隻とともに、国籍不明の潜水艦の攻撃を受け、沈没。合わせて、一七〇〇人以上の尊い命が犠牲となった（三船殉難事件＝別掲）。

一昨年九月、増毛町で解体業を営む中川勝弘さんが、作業中に解体家屋から小笠原丸の遺留品らしき木板を発見。昨年一〇月、情報労連北海道・NTT労組北海道総支部の要請により、NTTならびに海底ケーブル事業を担うNTT－WEマリンが調査したところ、小笠原丸の船尾にあった器具類保管用の木箱の側面と判明した。これを受け、中川さんからNTT－WEマリンに遺留品が返還されることとなった。

「授与式」に集まった関係者ら。右から、北海道総支部・熊澤委員長、コミュニケーションズ本部北海道分会・天神分会長、コミュニケーションズ本部・高田委員長、コミュニケーションズ本部WEマリン分会・藤井分会長、遺留品の持ち主・中川さん、NTTワールドエンジニアリングマリン（株）・久本社長、留萌市・野呂市議（組織内）、増毛町教育委員会・佐々木参事、増毛町役場福祉厚生課・荻原課長

授与式では、関係者らがそれぞれあいさつ。NTT労組北海道総支部・熊澤委員長は、「遺留品の発見を機に、平和への誓いを新たにし、情報労連『平和四行動』と合わせ北海道の独自の取り組み『稚内平和行動』を継続・発展させていきたい」と述べた。

また、コミュニケーションズ本部・高田委員長は、「先人・先輩の悲しみを忘れず、小笠原丸だけではなく、すべての戦争の悲劇・史実を風化させない取り組みを強化したい」と述べた。

さらに、NTT－WEマリンの久本社長は、「亡くなられた方々の『見つけてほしい』との願いが、発見につながったのではないか。今後は、長崎の海底線資料館で保管・展示するが、多くの皆さんに見ていただきたい」と述べた。

この後、参加者は、小笠原丸慰霊碑前で、亡くなられた御霊に対し恒久平和の実現を誓った。

三船殉難事件とは

1945年8月22日、樺太からの引揚船3隻（小笠原丸・第二新興丸・泰東丸）が国籍不明の潜水艦による攻撃を受け沈没、1700人以上が犠牲となった。

〈詳細4～5面〉

小笠原丸の遺留品発見に寄せて　北海道総支部・熊澤委員長に聞く

「小笠原丸」「九人の乙女」の悲劇　私たちの〝責務〟として伝えたい

これまでの経緯

昨年秋、NTT労組の組織内・野呂照幸留萌市議から、小笠原丸の装備品らしきものが見つかったとの一報をいただいた。

聞けば、一昨年秋、増毛町で解体業を営む中川勝弘さんが、民家で作業中に、「小笠原丸」と書かれた木板を発見したと言う。

ただ本物かどうかも分からないことから、中川さんは、誰にも言わず保管。昨年九月に、町主催の敬老の会のイベントで、町の厚生課長に相談し、野呂議員に話をしたようだ。

装備品は、発見当時で六六年前のもの。正直、信じられなかった。ただ、真偽を確かめなければならないと、すぐにNTTワールドエンジニアリングマリンに調査を依頼。

その結果、小笠原丸の船尾にあった器具類保管用の木箱の側面だと分かった。

感無量であるとともに、「OGASAWARA MARU」と書かれた木板は、現代の私たちに何かを語りかけているように思う。

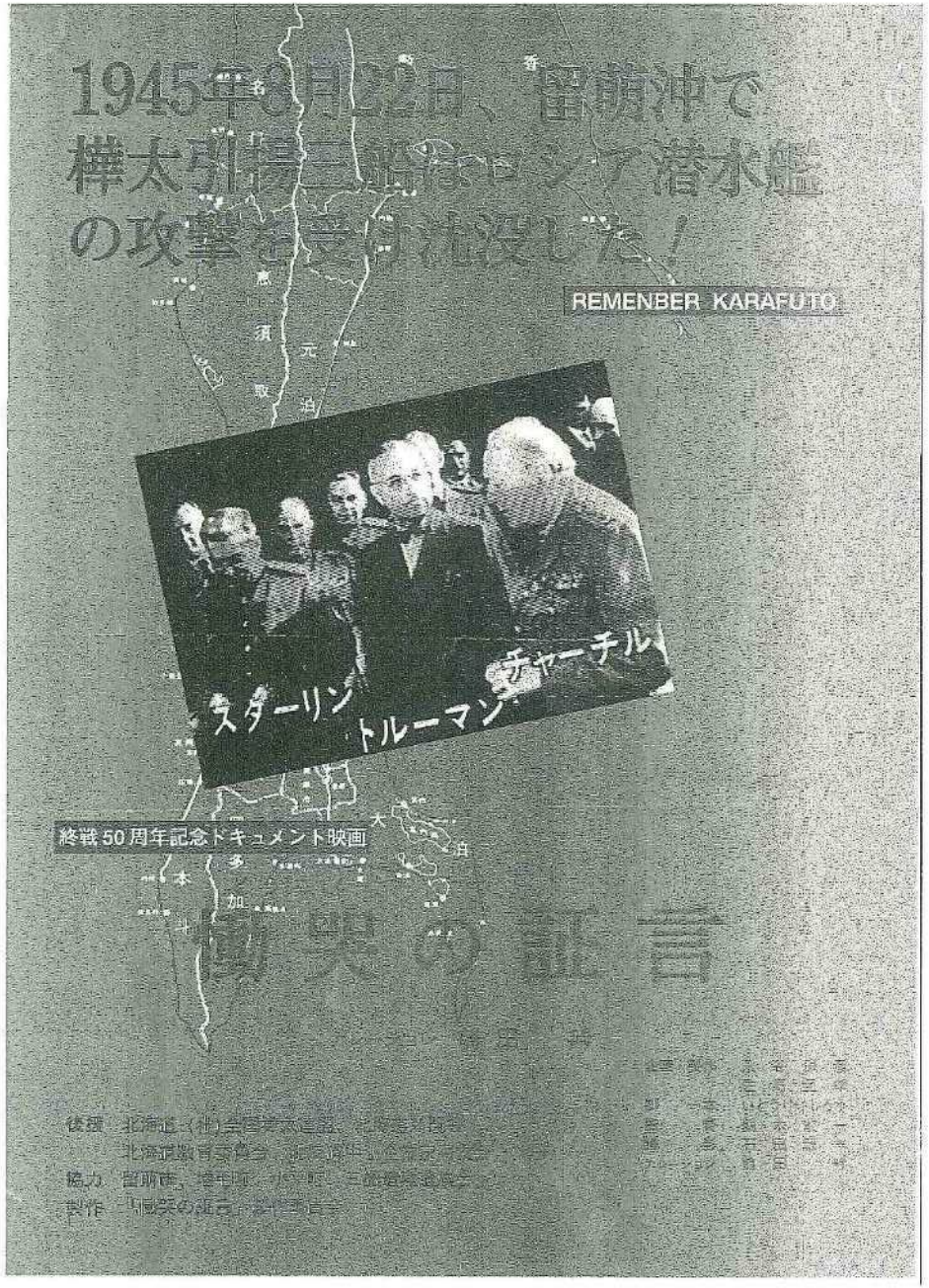
装備品は、長崎にあるWEマリンの海底線資料館で展示されるが、一人でも多くのNTTグループ関係者に、小笠原丸の悲劇を知ってもらいたい。

史実の継承へ

情報労連北海道は、情報労連「平和四行動」と合わせ、戦後六〇年の二〇〇五年から、「稚内平和行動」に取り組んでいる。毎年八月一九～二〇日に、増毛・留萌・小平の「三船殉難」の慰霊碑と、稚内の「九人の乙女（樺太・真岡郵便局の電話交換手）の碑」を訪れ、平和を祈念するものだ。

小笠原丸や九人の乙女の悲劇は、亡くなられた方が、私たちの大先輩であるにもかかわらず、市民はもとより、情報労連の仲間でも知らない人が多い。

情報労連北海道、NTT労組北海道総支部としては、これを契機に、〝平和の誓い〟を新たにし、私たちの責務として、史実の継承と恒久平和の実現に取り組んでいく。



終戦50周年記念
ドキュメンタリー映画

「慟哭の証言」

■映画「慟哭の証言」は前作「戦争が終った夏に」の続編ともいうべき作品です。

■「戦争が終った夏に」は、昭和二十年、八月二十二日、留萌沖で樺太引揚船「小笠原丸」「第二新興丸」「泰東丸」の三船が、ロシア潜水艦の攻撃を受け、推定、一七〇一名が犠牲となった事件を長編アニメーション映画として製作しました。

上映は大反響の中で現在もつづけられています。

■映画「慟哭の証言」は三船攻撃から奇跡的に助かった生存者、遺族、関係者たちの証言を中心に、事件の真実に迫るドキュメント映画であり、犠牲者のご鎮魂と平和を祈念するレクイエムでもあります。

■一九九二年十月、三船を攻撃したのは、ロシア潜水艦である事が判明しました。

■「慟哭の証言」では、遺族代表がウラジオストックに行き、ロシア太平洋艦隊及び所属の海軍博物館で見つけた、潜水グラフ他数々の資料も写し出されます。

又、三船を攻撃したロシア潜水艦L19号の副艦長の未亡人（ユーラさん）と遺族たちの感動シーンやロシア海軍軍人との迫力ある交渉シーンも描かれます。

■「慟哭の証言」はなぜ戦争が終って一週間も経ってからロシア潜水艦が引揚三船を攻撃し、無抵抗の老人、婦人、幼い子たち犠牲さなければならなかったのかその原因を皆さんと一緒に考える映画です。

■製作は、平和教育映画、製作配給約年の歴史をもつ北海道共同映画社で、映像プロダクションの協力です。

■スタッフは、脚本、監督、撮影、音楽他すべて北海道在住のベテランです。

■ナレーションは寅さんシリーズ「寅はつらいよ」NHK「泰よこい」に出演のベテラン俳優前田吟です。

■映画は平成七年八月完成、二十日より全国上映中です。

あらすじ

日本海留萌沖の洋上に浮ぶ船、機雷探知機のソーナーが海底の物体を映し出していました。この海底には昭和二〇年八月二二日樺太引揚船、小笠原丸、第二新興丸、泰東丸がソビエト潜水艦の攻撃を受け、大破沈没したのです。八月九日ソビエトは日ソ不可侵条約を一方的に破棄し、国境のソビエト軍は戦車を先頭に日本の領土に侵攻したのです。ソ連首相スターリンは、先のヤルタ会談で米大統領ルーズベルト、英首相チャーチルに対し、対日参戦の代償として南樺太（千島）を領土にする事を確約させました。こうした中で島民の緊急疎開が樺太庁の命令で行われました。真岡取、真岡に対してのソビエト海軍の艦砲射撃が開始されるや島民は殺って大泊へと避難しました。大泊港は逃げ惑う避難民であふれていました。

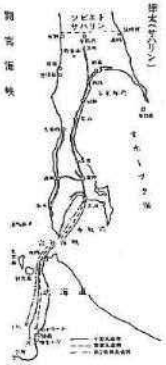
スターリンは樺太侵攻の命令をかって北海道の北半分の占領を企て、留萌への上陸作戦計画を立てていたのです。樺太へのソ連軍の攻撃はますます熾烈を極め、真岡取の太平洋炭礦病院看護婦六人の集団自決や真岡郵便局では九人の電話交換手が青酸カリを飲んで殉職するという悲劇が起りました。

小笠原丸は八月二〇日午後一、一時四五分一五一四名の引揚者を乗せて稚内に向いました。稚内では八八七名が下船しましたが、身体の弱い者や本州にいく引揚者の多くは下船せず八月二一日午後四時小樽へ向け出航しました。八月二二日午前四時二〇分ソビエト潜水艦の魚雷攻撃を受け、一分たらずで轟沈しました。犠牲者は六四一名。第二新興丸は八月二二日四時五五分浮上してきたソビエト潜水艦二隻に急襲攻撃を受けました。第二新興丸は特設砲艦なので十二インチ砲二門と二五ミリ機銃で応戦、一隻の潜水艦を沈没させました。しかし船腹を大破した為に船体が大きく傾きかろうじて留萌港に逃げこみました。犠牲者は四〇〇名です。泰東丸は八月二二日九時四五分浮上してきたソビエト潜水艦の攻撃を浮けました。自爆をあげているにもかかわらず機銃掃射で甲板の引揚者を殺りくしたのです。七六一名の犠牲者がでました。奇跡的に助かった百数十名の人は船内から大港に帰港する海防艦　石崎　と高栄丸に救助されました。

あの日から四七年経った平成四年一〇月一日これまで国籍不明艦による攻撃とされてきた樺太三船遭難に新たな事実が発見されたのです。ソ連邦崩壊によって国防省の秘密が白日のもとにあばかれ、三船攻撃は、ソビエト潜水艦である事が判明したのです。

平成五年一月「遺族会が結成されました」。ロシア政府に対する謝罪、日本政府に対する補償を求めたち上りました。平成五年六月十四日、札幌は北海道神宮の大祭です。札幌祭りでにぎあうこの日、遺族の代表は、三船遭難事件の真相を求めてロシア極東の要港太平洋艦隊のあるウラジオストックに飛び立ちました。

ウラジオ太平洋艦隊を訪れた遺族はそこで何を目撃したのでしょうか――。

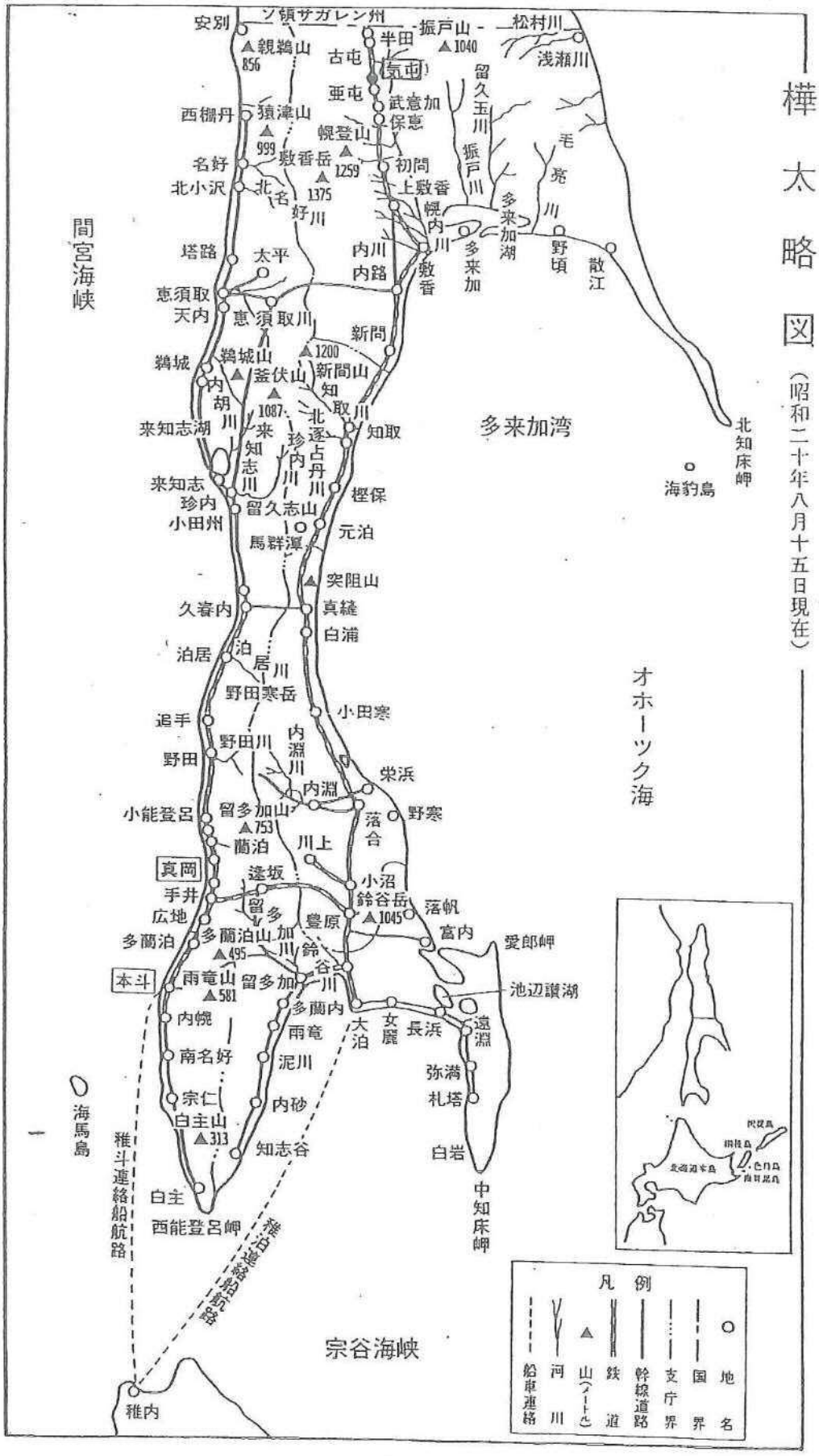


戦争による犠牲は数限りなくありますがこの引揚船の痛ましい事実も戦争のもたらした惨禍でした。私たちはいついかなる時も真剣に平和を求めなければならないと思います。この映画が多くの人に、特に若い人に見られることを願って止みません。

（作者）三浦　綾子

有限会社 北海道共同映画社
札幌市中央区南8条西22丁目
ヒルストリート旭ヶ丘5号
TEL532－0051

樺太略図（昭和二十年八月十五日現在）



～MEMO～

三船の沈没または攻撃された地点と進路（推定）